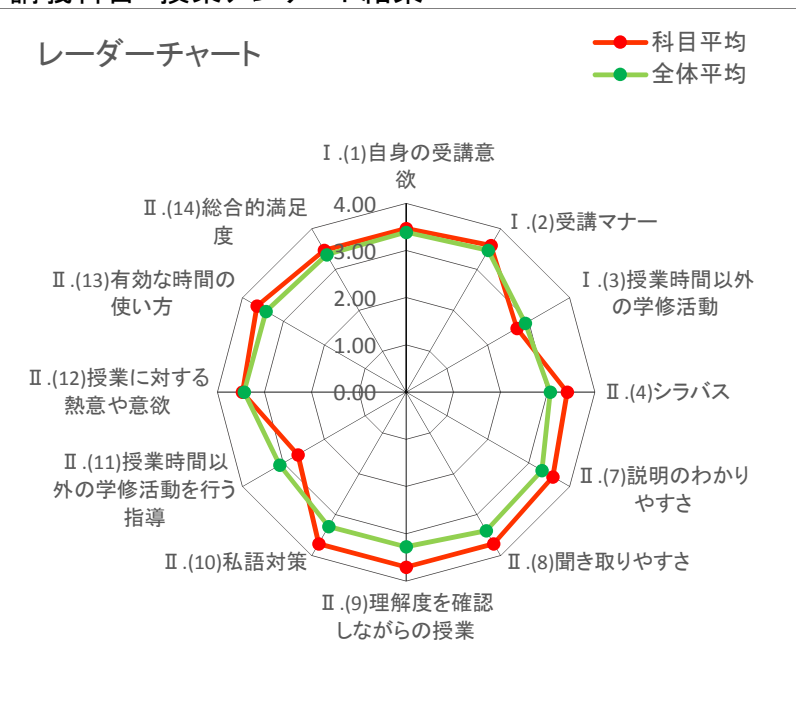
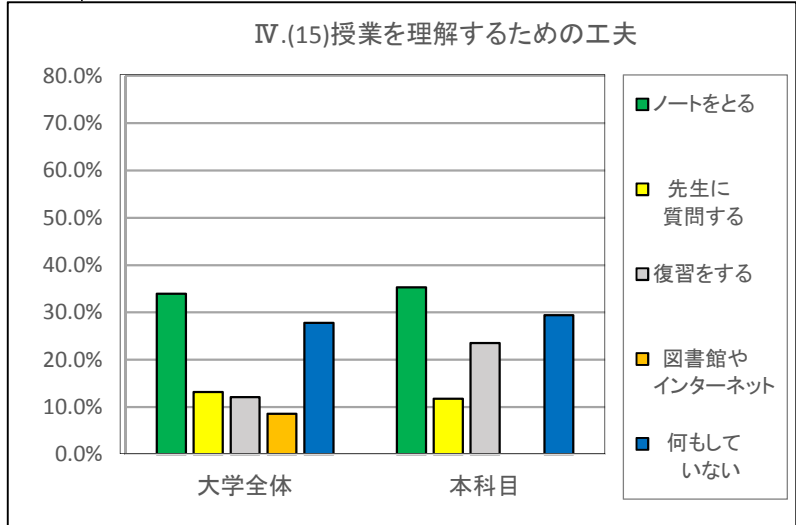


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2、(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(15) 授業を理解するための工夫	35.3%	11.8%	23.5%	0.0%	29.4%



アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2014年度 後期
時間割番号	14311/14355
科目名	リスクマネジメントⅡ/リスクマネジメント
教員名	

	設問No	科目平均	全体平均
受講姿勢	I.(1)	3.47	3.39
	I.(2)	3.59	3.47
	I.(3)	2.71	2.91
受講内容・方法	II.(4)	3.41	3.05
	II.(5)		
	II.(6)		
	II.(7)	3.59	3.32
	II.(8)	3.71	3.39
	II.(9)	3.71	3.27
	II.(10)	3.71	3.28
	II.(11)	2.65	3.09
	II.(12)	3.47	3.43
	II.(13)	3.65	3.43
	満足度	II.(14)	3.47

①授業計画の達成度について  
 リスクマネジメントⅠで説明したリスクコントロールの4つの手法(回避、低軽減、移転、保有)のうち、リスクマネジメントⅡでは、伝統的なリスク移転の手法である「保険」にテーマを限定して、15回の講義を実施した。全体の内容を5回の3つの単元に分割し、各単元終了時に確認テスト(計3回)をおこなって成績を評価した。以上のシラバスに記述した通りに授業運営をおこない、授業の目的を認識させることができたと思われる。また、第1, 2回の確認テストについては、学生の作成した解答から選択してコピーした解答案を配布し、授業時に他者の答案を検討しながら復習する時間をとった。難易度の高低については、アンケート結果の判断が2分しているが、教員の立場からすれば「いい塩梅」ではないかと判断している。

②授業の進め方について  
 授業の進め方で考慮した点は、単なる繰り返しにならない仕方で、主要内容を繰り返すことと、キー概念間の関連を意識化できるように、適切な問いかけをしたことである。実態を問う「～はどうなっているのか」という問いの後に、原因・理由あるいは目的を問う「なぜ、どうして・・・となっているのか」という問いかけをして、授業時の学習過程において「立ち止まって考える(stop and think)」を実践できるようにした。このように考慮してことは、アンケート結果にも反映されているようであるが、現場では90分間の集中度の持続はなかなか難しいものであり、より具体的に適切な事例を提示して、深い思考の経験ができるようにする必要があると判断している。

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	3.25	3.26
I.(1)~(3)		
講義内容・方法	3.49	3.28
II.(4)~(13)		
総合的満足度	3.47	3.36
III.(14)		

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について  
 授業時間内にある水準で完結することを一つの目標として、内容と方法を再検討しながら、この数年授業をしてきたこともあり、その問題点は問(11)「授業時間以外の学修活動を行う指導」のアンケート結果に反映されている通りである。各回の授業時には、必修課題を提示し、ノートを取りながら課題の解答を作成できるようにしている。この方法を継続しつつ、適当な「発展課題」を準備できれば望ましいと考えている。授業の達成度を評価するために、第3回目の確認テストにおける記述問題の解答結果を基準にとってみると、忸怩たる思いに駆られる。キー概念の連関を踏まえて、記述問題の解答を文章化できるまでの理解力と思考力を、大学教育では要請されているものと考えているからである。次年度の試行目標としたい。